

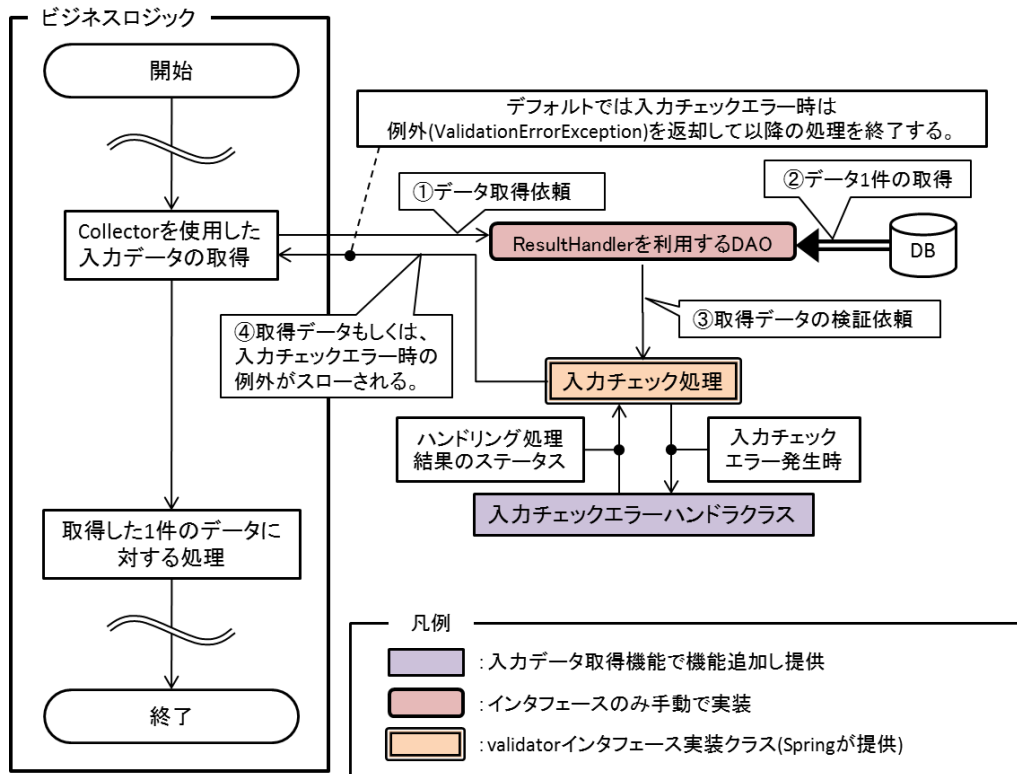
## AL-043 入力チェック機能

### ■ 概要

#### ◆ 機能概要

- 「AL-041 入力データ取得機能」を使用した際に、DB やファイルから取得したデータ 1 件毎に入力チェックを行う機能を提供する。
- 入力チェックは、DB やファイルからデータを取得するタイミングで行われる。
- アノテーション(Bean Validation)を利用した入力チェック機能を利用する。

## ◆ 概念図



## ◆ 解説

- ① Collector は、ResultHandler をメソッドの引数に持つ DAO(以降、入力チェック機能の説明に限り、単に DAO と呼ぶ)にデータの取得を依頼する。
- ② DAO は DB からデータを 1 件取得する。
- ③ DAO は取得したデータを返却する前に、validator インタフェース実装クラスに入力チェック処理を依頼する。
- ④ validator インタフェース実装クラスは入力チェックの結果に応じて、処理を振り分ける。

- 入力チェックエラーなしの場合…取得データをビジネスロジックに返却する。
- 入力チェックエラーありの場合…入力チェックエラーハンドラクラスによって入力チェックエラー時の例外「ValidationException」がビジネスロジックに返却される。

この時、独自に作成した拡張入力チェックエラーハンドラクラスを使用することによって、例外「ValidationException」をスローすることなく以降の処理を継続させることも可能である。拡張入力チェックエラーハンドラクラスを作成する場合は、拡張ポイントの項目を参照すること。

## ◆ コーディングポイント

### 【コーディングポイントの構成】

- 入力チェックルールの設定例
  - 検証アノテーションを使用した入力チェックルールの設定例
  - 検証アノテーション一覧
- 入力チェックを行う場合のビジネスロジックの実装例
  - ビジネスロジックの実装例(DB からのデータ取得)
  - ビジネスロジックの実装例(ファイルからのデータ取得)
- 入力チェックエラーの内容を確認する方法
  - 入力チェックエラーメッセージ
  - その他
- 本機能が提供する、入力チェックエラーハンドラクラスについて
- 入力チェック対応 **Collector** クラスのコンストラクタについて
  - コンストラクタで設定できる内容について
  - 入力チェック対応 **Collector** クラスのコンストラクター一覧
  - コンストラクタ引数一覧

- 入力チェックルールの設定例

- 検証アノテーションを利用した入力チェックルールの設定例

入力チェック対象の DTO クラスのプロパティに対し、入力チェックルールを定義する検証アノテーションを付与することで、入力チェックを行うことができる。以下に、入力チェックルールを定義する検証アノテーションを付与した DTO クラスの実装例を掲載する。

```
public class UserDto {

    @NotNull
    @Size(min=1, max=20)
    private String name;

    @NotNull
    @Min(0)
    @Max(200)
    private Integer age;

    // getter, setter が必要
}
```

上記の実装例では、次のような入力チェックを行うことができる。

- ✓ 名前(name)が null ではなく、1 文字以上、20 文字以下
- ✓ 年齢(age)が null ではなく、0 以上、200 以下

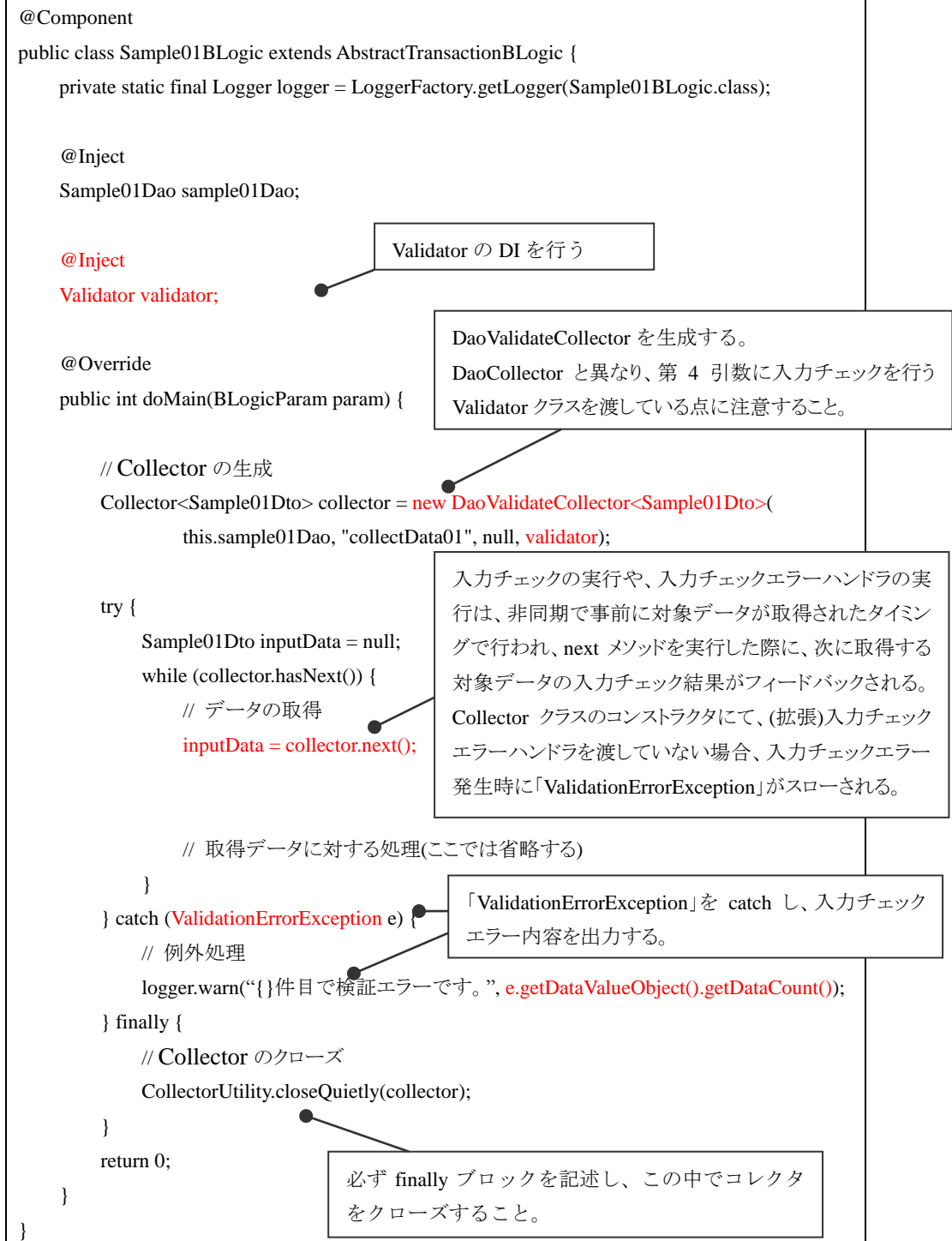
- 検証アノテーション一覧

以下に、フレームワークが提供している検証アノテーション一覧を掲載する。

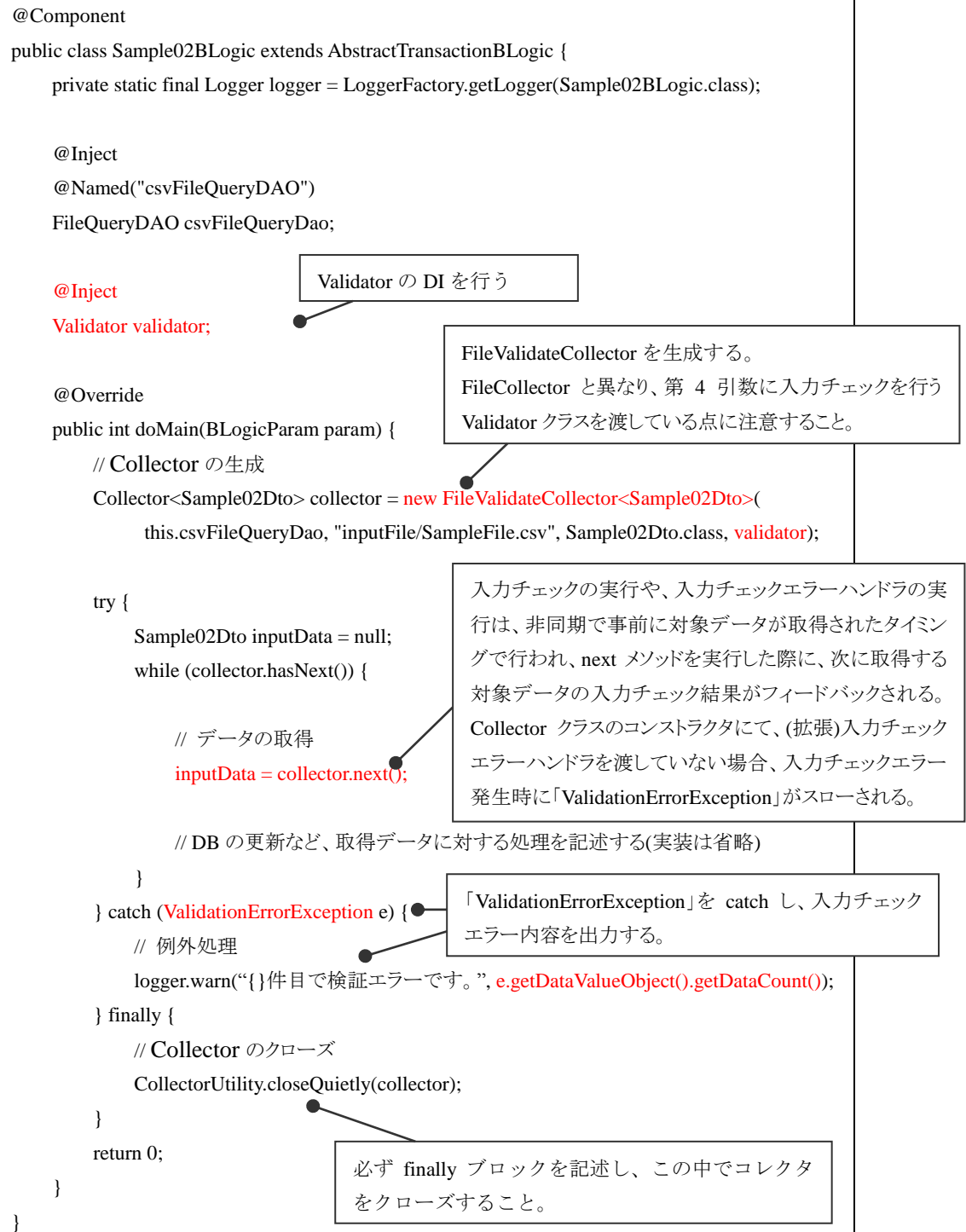
検証アノテーション	用途	使用例
@NotNull	対象のフィールドが、null でないことを検証する。	@NotNull private String id;
@Null	対象のフィールドが、null であることを検証する。	@Null private String id;
@Pattern	対象のフィールドが正規表現にマッチするかどうかを検証する。	@Pattern(regexp="[0-9]+") private String tel;
@Min	値が、最小値以上であるかどうかを検証する。	@Min(1) private int price;
@Max	値が、最大値以下であるかどうかを検証する。	@Max(100) private int age;
@DecimalMin	Decimal 型の値が、最小値以上であるかどうかを検証する。	@DecimalMin("0.0") private BigDecimal price;

@DecimalMax	Decimal 型の値が、最大値以下であるかどうかを検証する。	@DecimalMax("9999.99") private BigDecimal price;
@Size	Length が min と max の間のサイズか検証する。	@Size(min=4, max=64) private String password;
@Digits	値が指定された範囲内の数値であるかチェックする。 integer:整数部の最大桁数 fraction:小数部の最大桁数	@Digits(integer=6, fraction=2) private BigDecimal price;
@AssertTrue	対象のフィールドが true であることを検証する。	@AssertTrue private boolean checked;
@AssertFalse	対象のフィールドが false であることを検証する。	@AssertFalse private boolean checked;
@Future	実行サーバの現在時刻(ローカルのタイムゾーン)より未来時刻であるか検証する。	@Future private Date eventDate;
@Past	実行サーバの現在時刻(ローカルのタイムゾーン)より過去時刻であるか検証する。	@Past private Date eventDate;
@Valid	関連付けられているオブジェクトについて、再帰的に検証を行う。	@Valid private List<Employer> employers;
@CreditCardNumber	Luhn アルゴリズムでクレジットカード番号が妥当かどうか検証する。使用可能な番号かどうかをチェックするわけではない。 「ignoreNonDigitCharacters=true」を指定することで、数字以外の文字を無視して検証することができる。	@CreditCardNumber private String cardNumber;
@Email	RFC2822 に準拠した Email アドレスかどうか検証する。	@Email private String email;
@URL	RFC2396 に準拠しているかどうかを検証する。	@URL private String url;
@NotBlank	トリムされた文字列長が 0 より大きいことを検証する	@NotBlank private String userId;
@NotEmpty	Null、または空文字("")でないことを検証する	@NotEmpty Private String password;

- 入力チェックを行う場合のビジネスロジックの実装例  
以下に DB、及びファイルからデータを取得する際に入力チェックを行う際の実装例を掲載する。  
使用する Collector クラスが、入力チェックを行わない場合と異なる点に注意する。  
➤ ビジネスロジックの実装例(DB からのデータ取得)



## ➤ ビジネスロジックの実装例(ファイルからのデータ取得)



- 入力チェックエラーの内容を確認する方法

入力チェックエラーの内容（入力チェックエラーメッセージや、入力チェックエラーとなったフィールド名など）は **FieldError** オブジェクトに格納されている。

**FieldError** は、ビジネスロジックにスローされた例外から取得できる。

以下に、入力チェックエラーの内容を確認する方法を掲載する。

- 入力チェックエラーメッセージ

- ◇ 入力チェックエラーメッセージの定義例

入力チェックエラーメッセージは `src/main/resources` の下に配置されている `ValidationMessages.properties` に定義されている内容を使用する。定義がない場合は、**Hibernate Validator** のデフォルトメッセージを使用する。

- ✓ 入力チェックエラーメッセージの定義例

```
javax.validation.constraints.Max.message={value}以下で入力してください。
```

「検証アノテーションクラスの FQCN + .message」のプロパティキーを利用する。

なお、検証アノテーションの `message` 属性に、直接メッセージを指定してメッセージを変更することができる。

検証アノテーションで指定できるメッセージの形式は次の通りである

- ① 検証アノテーションに直接メッセージを設定する
- ② 検証アノテーションにプロパティキーを設定する

以下に、それぞれの設定例を掲載する。

- ① 検証アノテーションに直接メッセージを設定する

検証アノテーションに直接取得したいメッセージを取得すると、**FieldError** オブジェクトの `getDefaultMessage` メソッドでそのメッセージを取得できる。

- ✓ 検証アノテーションの設定例

```
public SampleBean {
```

```
    @NotNull(message = "名前は入力必須です。")
```

```
    private String name;
```

```
    // setter, getter は必須
```

```
}
```

検証アノテーションの `message` 属性にメッセージを直接指定する。

`name` プロパティで入力チェックエラーが発生した場合、**FieldError** オブジェクトの `getDefaultMessage` メッセージの返却値として「名前は入力必須です。」が取得できる。



## ② 検証アノテーションにプロパティキーを設定する

プロパティファイルに定義した別のメッセージキーのメッセージを出力させることができる。プロパティファイルは、業務コンテキスト(デフォルトでは `commonContext.xml`)に定義した `messageSource` が読み込んでいる(`basenames` 属性に指定されている)プロパティファイルでなければならない。

## ✓ プロパティファイルの設定例

`sample.required`=入力必須です。

## ✓ 検証アノテーションの設定例

```
public SampleBean {  
  
    @NotNull(message = "{sample.required}")  
    private String name;  
  
    // setter, getter は必須  
}
```

"{プロパティキー}"を指定する。

上記の設定例の場合、`FieldError` オブジェクトの `getDefaultMessage` メッセージの返却値として「入力必須です。」が取得できる。

## ◇ 入力チェックエラーメッセージの取得例

メッセージは、取得した `FieldError` オブジェクトの `getDefaultMessage` メソッドを呼び出すことで出力できる。`FieldError` オブジェクトは、ビジネスロジックにスローされた例外を捕捉し、`ValidationException` オブジェクトの `getErrors` メソッドを呼び出して取得する。

## ✓ 入力エラーメッセージの取得例

```
@Component
public class Sample02BLogic extends AbstractTransactionBLogic {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(Sample02BLogic.class);
    (省略)

    @Override
    public int doMain(BLogicParam param) {
        try {
            Sample02Dto inputData = null;
            while (collector.hasNext()) {
                // データの取得
                inputData = collector.next();
                // DB の更新など、取得データに対する処理を記述する(実装は省略)
            }
        } catch (ValidationException e) {
            // 例外オブジェクトから FieldError オブジェクトを取得
            List<FieldError> fieldErrorsList = e.getErrors().getFieldErrors();
            for (FieldError fe : fieldErrorsList) {
                // FieldError オブジェクトからメッセージを取得し
                // 入力チェックエラーメッセージを出力
                logger.warn(fe.getDefaultMessage());
            }
        } finally {
            // Collector のクローズ
            CollectorUtility.closeQuietly(collector);
        }
        return 0;
    }
}
```

`FieldError` オブジェクトに、1 件分の入力チェックエラー内容が格納されている。例えば、1 レコード中に 3 件エラーがある場合は、3 つの `FieldError` オブジェクトがあるため、繰り返し出力する。

## ➤ その他

その他、**FieldError** オブジェクトから取得できる内容と取得方法(メソッド)の一覧を以下に掲載する(入力チェックエラーメッセージを含む)。

取得方法	返却される型	取得内容
getDefaultMessage	String	入力チェックルールに対応するメッセージを <code>ValidationMessage.properties</code> から取得する。上記の例にて、 <b>Max</b> 検証ルール(例:100 以下)で入力チェックエラーが発生した場合は、「100 以下で入力してください。」を返却する。
getArguments	Object[]	入力チェックエラーメッセージを解決するために使用される値を返却する。
getRejectedValue	String	入力チェックエラーとなった対象の値を返却する。
getObjectName	String	入力チェック対象の DTO クラスのオブジェクト名を返却する。
getField	String	入力チェックエラーとなった対象のプロパティ名を返却する。
getCodes	String[]	入力チェックエラーのメッセージと対応付けるコードのリストを返却する。リストの各要素の例を以下に示す。配列等を使い、ネストしたクラスを入力チェックする場合は、要素が増える場合があるため、要素のインデックスを考慮すること。 [0] : \${ 検証ルール名 }. \${ オブジェクト名 }. \${ プロパティ名 } [1] : \${ 検証ルール名 }. \${ プロパティ名 } [2] : \${ 検証ルール名 }. \${ 検証対象のプロパティの型 } [3] : \${ 検証ルール名 }
getCode	String	getCodes の最後の要素を返却する。

- 本機能が提供する、入力チェックエラーハンドラクラスについて

入力チェックエラー ハンドラクラス	仕様
ExceptionValidationErrorHandler	<p>デフォルトで使用される入力チェックエラーハンドラクラス。 入力チェックエラーが発生した時点で例外をスローする。この 入力チェックエラーハンドラは以下の場合に使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 入力チェックエラー検出時に処理を異常終了させる場合</li> <li>✓ 入力チェックエラー例外を呼び出し元や拡張例外ハンドラ クラスでハンドリングして、処理を継続(次のデータを処 理)する場合</li> </ul>

- 入力チェック対応 **Collector** クラスのコンストラクタについて  
**DaoValidateCollector** と **FileValidateCollector** が用意するコンストラクタと、コンス  
トラクタに使用される引数の一覧を掲載する。
  - コンストラクタで設定できる内容について  
実装例で使用した基本的なコンストラクタの他に、引数を与えることにより、  
以下の項目を設定することが可能である。
    - ① **TERASOLUNA Batch framework for Java** が提供する 1:N マッピング機能の  
使用有無(DB のみ) (※1)
    - ② キューサイズ
    - ③ 拡張例外ハンドラクラス(※2)
    - ④ 使用する入力チェックエラーハンドラクラス(※3)

※1. **MyBatis3** における **select** タグの **resultOrdered** 属性の値が **true** である場合  
と同等である。

1:N マッピングの処理を行う場合には、以下のページの **collection** の章を  
参照すること。

( <http://mybatis.github.io/mybatis-3/ja/sqlmap-xml.html> )

※2. 拡張例外ハンドラクラスに関しては、『AL-041 入力データ取得機能』の  
機能説明書の拡張ポイントの項目を参照すること。

なお、拡張例外ハンドラクラスを設定した場合は入力チェックエラー例  
外(**ValidationErrorException**)も処理対象となる。後述する※3 の入力チ  
ェックエラーハンドラクラスにより例外がスローされた場合は、本拡張例  
外ハンドラクラスで処理されることに留意する。

※3. 未指定時は先に示した「**ExceptionValidationErrorHandler**」が使用される  
が、独自実装した拡張入力チェックエラーハンドラクラスを指定して置  
き換えることができる。

拡張例外ハンドラクラスを設定しており、入力チェックエラー例外を拡  
張例外ハンドラクラスで処理したくない場合は、拡張入力チェックエラ  
ーハンドラクラスを独自実装し、例外をスローしないようにすること。  
詳細は、後述の拡張ポイントの項目を参照のこと。

- 入力チェック対応 Collector クラスのコンストラクター一覧  
以下に入力チェック対応の Collector クラスのコンストラクタを列挙し、概要を掲載する。

引数についての詳細は、後述のコンストラクタ引数一覧を参照すること。

◇ DaoValidateCollector のコンストラクター一覧

コンストラクタ	概要
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, Validator)	実装例で掲載した基本となるコンストラクタ これら 4 つの引数は必須である。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 使用する入力チェックエラー ハンドラクラスを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, boolean, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 1:N マッピング使用の有無を設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, boolean, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 1:N マッピング使用の有無、 使用する入力チェックエラーハンドラクラスを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズ、 使用する入力チェックエラーハンドラクラスを使用する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, CollectorExceptionHandler, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラスを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, CollectorExceptionHandler, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラス、 使用する入力チェックエラーハンドラクラスを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, boolean, CollectorExceptionHandler, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 1:N マッピング使用の有無、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラスを設定する。
DaoValidateCollector<P>(Object, String, Object, int, boolean, CollectorExceptionHandler, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 1:N マッピング使用の有無、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラス、 使用する入力チェックエラーハンドラクラスを設定する。

## ◇ FileValidateCollector のコンストラクター一覧

コンストラクタ	概要
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, Validator)	実装例で掲載した基本となるコンストラクタ これら 4 つの引数は必須である。
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 使用する入力チェックエラーハンドラクラス を設定する。
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, CollectorExceptionHandler, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 拡張例外ハンドラクラスを設定する。
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, CollectorExceptionHandler, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 拡張例外ハンドラクラス、 使用する入力チェックエラーハンドラクラス を設定する。
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, int, CollectorExceptionHandler, Validator)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラスを設定する。
FileValidateCollector<P>(FileQueryDAO, String, Class<P>, int, CollectorExceptionHandler, Validator, ValidationErrorHandler)	基本となるコンストラクタ及び、 キューサイズ、 拡張例外ハンドラクラス、 使用する入力チェックエラーハンドラクラス を設定する。

➤ コンストラクタ引数一覧

前ページで列挙したコンストラクタで使用する引数を以下に列挙する。  
入力データ取得機能と比較し、差分となる新規要素については**太字**で掲載する

◇ DaoValidateCollector のコンストラクタで渡される引数

引数	解説	デフォルト値	省略
Object	DB にアクセスするための DAO のインスタンス	—	不可
String	ResultHandler クラスを引数に持つ DAO のメソッド名	—	不可
Object	SQL にバインドされる値を格納したオブジェクト、バインドする値が存在しない場合は省略せず、null を渡すこと。	—	不可
int	キューサイズ、0 以下の値は無視される。基本的に変更不要。	20	可
CollectorExceptionHandler	例外ハンドラクラス、	null	可
boolean	MyBatis3 の 1:N マッピング使用時は true を渡す。true にすることにより、メモリの肥大化を最小限に抑えることができる。	false	可
<b>Validator</b>	入力チェックを行う <b>Validator</b> 。 通常は Spring が提供する <b>Validator</b> を使用する。	—	不可
<b>ValidationErrorHandler</b>	入力チェックエラーハンドラクラス。	<b>ExceptionHandlerErrorHandler</b>	可

◇ FileValidateCollector のコンストラクタで渡される引数

引数	解説	デフォルト値	省略
FileQueryDAO	ファイルにアクセスするための DAO	—	不可
String	読み込むファイル名	—	不可
Class<P>	ファイル行オブジェクトクラス	—	不可
int	キューサイズ、0 以下の値は無視される。基本的に変更不要。	20	可
CollectorExceptionHandler	例外ハンドラクラス、	null	可
<b>Validator</b>	入力チェックを行う <b>Validator</b> 。 通常は Spring が提供する <b>Validator</b> を使用する。	—	不可
<b>ValidationErrorHandler</b>	入力チェックエラーハンドラクラス。	<b>ExceptionHandlerErrorHandler</b>	可

## ◆ 拡張ポイント

- 独自に検証アノテーションを実装する方法  
フレームワークが提供していない単項目チェックルールや関連項目チェックルールの検証アノテーションを追加したい場合は、以下の URL の「How to extend」を参考にすること。  
( <http://terasolunaorg.github.io/guideline/5.0.0.RELEASE/ja/ArchitectureInDetail/Validation.html#how-to-extend> )
- 拡張入力チェックエラーハンドラクラスを独自実装する方法
  - **ValidationErrorHandler** インタフェースの実装クラスを作成することにより、拡張入力チェックエラーハンドラクラスを作成することが可能である。
  - 拡張入力チェックエラーハンドラクラスは、**ExceptionHandlerValidationErrorHandler** のように例外をスローする他、以降の処理を制御するステータス **ValidateErrorStatus** を返却することができる。
  - 入力チェックエラーハンドラクラスの **handleValidationError** メソッドに渡される **Errors** オブジェクトに格納されている **FieldError** オブジェクトから入力チェックエラーの内容を取得することができる。
  - **ValidateErrorStatus** の一覧表  
入力チェックエラーハンドラクラスが返却するステータス一覧と、各ステータスが返却された際にビジネスロジック側でデータを取得する時の挙動について説明する。

ValidateErrorStatus	Collector の next メソッドの取得対象が入力チェックエラーデータの場合の挙動	Collector の getNext (getPrevious) メソッドの取得対象が入力チェックエラーデータの場合の挙動
<b>SKIP</b>	エラーデータは取得せずに、その後の正常なデータを取得する。その後の処理は継続する。	エラーデータは取得せずに、その後の正常なデータを取得する。
<b>CONTINUE</b>	エラーデータを取得する。その後の処理は継続する。	エラーデータを取得する。
<b>END</b>	エラーデータは取得せず、以降のデータも取得しない。 ※事前の hasNext による問合せに false を返す。	getNext は <b>null</b> を返却する(次のデータが存在しない、終端を意味する)。 getPrevious では参照できない。
なし (例外がスローされた場合)	例外がスローされる。ビジネスロジックで処理を停止しない限り、処理は継続する。	エラーデータを取得する。

※コントロールブレイク機能では、コントロールブレイク判定時に使用されるデータは後ブレイク判定の場合は **getNext** メソッド、前ブレイク判定の場合は **getPrevious** メソッドで前後のデータを取得し、ブレイク判定を行っている。コントロールブレイク判定時の比較対象のデータ **getNext**、**getPrevious** メソッドの返却値を意識すること。



- 以下に拡張入力チェックエラーハンドラクラスの実装例を掲載する。  
実装例では拡張入力チェックエラーハンドラクラスは以下の仕様で作成する。

【仕様】

- ① 入力チェックエラー発生時にログレベル **info** でエラー発生を通知する。
- ② 入力チェックエラーが発生したデータは無視し、以降の処理を継続する。

- 拡張入力チェックエラーハンドラクラス実装例

```
public class CustomValidationErrorHandler implements ValidationErrorHandler {  
  
    private static Logger logger =  
        LoggerFactory.getLogger(CustomValidationErrorHandler.class);  
  
    @Override  
    public ValidateErrorStatus handleValidationError(  
        DataValueObject dataValueObject, Errors errors) {  
  
        // ログ出力  
        if(logger.isInfoEnabled()){  
            logger.info("入力チェックエラー発生");  
        }  
  
        // ValidateErrorStatus の設定  
        return ValidateErrorStatus.SKIP;  
    }  
}
```

ValidationErrorHandler インタフェースを実装する。

handleValidationError メソッドの実装を行う

仕様①に従い、info レベルでエラーの発生を通知する。入力チェックエラーの内容を出力する例は、後述する。

仕様②に従い、SKIP を返却することにより、エラーが発生したデータは無視して、その後の処理を継続する。

### ➤ ビジネスロジックの実装例(DB)

```

@Component
public class Sample03BLogic extends AbstractTransactionBLogic {
    private static final Logger logger = LoggerFactory.getLogger(Sample03BLogic.class);

    @Inject
    Sample03Dao sample03Dao;

    @Inject
    Validator validator;

    @Inject
    CustomValidationErrorHandler handler;

    @Override
    public int doMain(BLogicParam param) {

        // Collector の生成
        Collector<Sample03Dto> collector = new DaoValidateCollector<Sample03Dto>(
            this.sample03Dao, "collectData06", null,
            validator, handler);

        try {
            Sample03Dto inputData = null;
            while (collector.hasNext()) {
                // データの取得
                inputData = collector.next();

            }
        } catch (ValidationException e) {
            // 例外処理
            logger.warn("{}件目で検証エラー");
        } finally {
            // Collector の破棄
            CollectorUtility.closeQuietly(collector);
        }

        return 0;
    }
}

```

Validator の DI を行う。

独自実装した拡張入力チェックエラーハンドラクラスの DI を行う。ハンドラクラスがスレッドアンセーフの場合は、new で生成すること。

コレクタ生成時に上で DI(もしくは new)した拡張入力チェックエラーハンドラクラスを渡しておく。

入力チェックの実行や、拡張入力チェックエラーハンドラの実行は、非同期で事前に対象データが取得されたタイミングで行われ、next メソッドを実行した際に、次に取得する対象データの入力チェック結果がフィードバックされる。拡張入力チェックエラーハンドラが SKIP や END を返す場合、next メソッドで取得できる件数自体が変わるため、入力チェック結果は、hasNext メソッドにも影響を及ぼす。例えば、SKIP や END の結果、next メソッドが参照できるデータが 1 つもなくなるケースにおいては、直前の hasNext メソッド呼び出し時に false を返す。

このように Collector インスタンス生成時にあらかじめ拡張入力チェックエラーハンドラクラスを渡すことにより、入力チェックエラー発生時にはこのハンドラクラスが使用されることになる。

- 入力チェックエラーメッセージにフィールド名を含める方法

入力チェックエラーメッセージにフィールド名を含めたい場合は、メッセージ定義にプレースホルダを加え、ビジネスロジックや入力チェックエラーハンドラでの出力に **MessageAccessor** または **MessageUtil**(非推奨)を利用する必要がある。以下に実装例を掲載する。

- 入力チェックエラーメッセージの定義例

デフォルトの入力チェックエラーメッセージ(src/main/resources 配下にある **ValidationMessages.properties**)にプレースホルダを定義する。

- ✓ 入力チェックエラーメッセージの定義例

```
javax.validation.constraints.Max.message={0}は{value}以下で入力してください。
```

「検証アノテーションクラスの FQCN + .message」のプロパティキーを指定する。

- 入力チェックエラーメッセージの取得例

- ◇ MessageAccessor を使用する例

**MessageAccessor** の **getMessage** オブジェクトを使用して出力する。第 1 引数に **FieldError** オブジェクトを指定するだけで良い。

- ✓ 入力チェックエラーメッセージの取得例

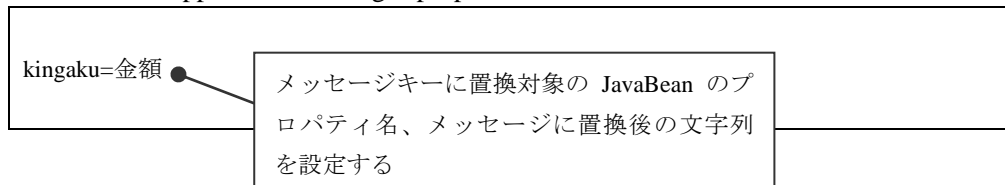
```
public class CustomValidationErrorHandler implements ValidationErrorHandler {  
    private static Logger logger =  
        LoggerFactory.getLogger(CustomValidationErrorHandler.class);  
    @Inject  
    MessageAccessor messageAccessor;  
  
    @Override  
    public ValidateErrorStatus handleValidationError(  
        DataValueObject dataValueObject, Errors errors) {  
        List<FieldError> fieldErrorsList = errors.getFieldErrors();  
  
        for(FieldError fe : fieldErrorsList) {  
            logger.warn(messageAccessor.getMessage(fe));  
        }  
    }  
}
```

**ValidationMessages.properties** に定義されている「{0}は{value}以下で入力してください。」のメッセージの{0}にはプロパティ名、{value}には検証値の値が置換された入力チェックエラーメッセージが取得できる(@Size(min=1, max=10)のような場合は、{min}, {max}や{message}のようにアノテーションのフィールド名で、その検証値を取得できる)。kingaku というプロパティに@Max(100)の入力チェックをした場合、「kingaku は 100 以下で入力してください。」のメッセージが取得できる。

なお、上記の方法では、フィールド名として **JavaBean** のプロパティ名が利用される。これを日本語のフィールド名などに置換したい場合は、src/main/resources 配下にある **application-messages.properties** に定義を追加する。

たとえば、上記のメッセージ定義例で、**JavaBean** のプロパティ名が **kingaku** だった場合、**kingaku** というメッセージキーで「金額」という文字列を定義すると、出力される入力チェックエラーメッセージは「金額は 100 以下で入力してください。」となる。

✓ **application-messages.properties** の設定例



## ◇ MessageUtil を使用する例(非推奨)

MessageUtil の getMessage メソッドを使用して出力する。MessageAccessor を使用する場合と違い、第 1 引数には FieldError オブジェクトの getCode メソッドで取得した文字列を、第 2 引数に FieldError オブジェクトの getField メソッドで取得したフィールド名を設定する。また、MessageAccessor を使用する場合と同じように、フィールド名を日本語などに置換したい場合は、フィールド名をキーにメッセージを別に取得する必要がある。(MessageUtil の getMessage メソッドでは、{0}を含むプレースホルダにはプロパティ名ではなく、第 2 引数で与えた文字列が代入されることに注意する)。

## ✓ 入力チェックエラーメッセージの取得例

```
public class CustomValidationErrorHandler implements ValidationErrorHandler {  
  
    private static Logger logger =  
        LoggerFactory.getLogger(CustomValidationErrorHandler.class);  
  
    @Override  
    public ValidateErrorStatus handleValidationError(  
        DataValueObject dataValueObject, Errors errors) {  
        List<FieldError> fieldErrorsList = errors.getFieldErrors();  
  
        for(FieldError fe : fieldErrorsList) {  
            logger.warn(MessageUtil.getMessage(fe.getCode(), fe.getField()));  
        }  
    }  
}
```

name というプロパティに @NotEmpty を設定した場合、fe.getCode()では”NotEmpty”の文字列、getField では”name”の文字列が取得できる。

第 1 引数:取得したいメッセージのプロパティキー

第 2 引数以降:プレースホルダに代入したい文字列

上記の例では、プロパティキーが NotEmpty のメッセージを取得し、{0}に name を代入した「name は入力必須です。」という文字列を取得できる。

## ■ リファレンス

### ◆ 構成クラス

	クラス名	概要
1	jp.terasoluna.fw.collector.db. DaoValidateCollector	DaoCollector 拡張クラス DaoCollector を入力チェックに対応させている。
2	jp.terasoluna.fw.collector.fil e.FileValidateCollector	FileCollector 拡張クラス FileCollector を入力チェックに対応させている。
3	jp.terasoluna.fw.collector.va lidate.ValidationErrorHandler	入力チェックエラーハンドラインタフェース 入力チェックエラーが発生した際の処理を宣言している。
4	jp.terasoluna.fw.collector.va lidate.AbstractValidationErr orHandler	ValidationErrorHandler クラスを実装した抽象クラス コンストラクタによるログレベルの変更や、ログ出力用のメソ ッドなどの処理を定義している。
5	jp.terasoluna.fw.collector.va lidate.ExceptionValidationE rrorHandler	AbstractValidationErrorHandler クラスの拡張クラス 入力チェックエラーが発生した場合は TRACE ログにエラーコ ードを出力し、例外(ValidationExceptionHandler)をスローする(処 理が途中で中断する)
6	jp.terasoluna.fw.collector.va lidate.ValidateErrorStatus	列挙型クラス 入力チェックエラーハンドラクラスはこの値によって、入力チ ェックエラー発生後の挙動を決定する。
7	jp.terasoluna.fw.collector.va lidate.ValidationExceptio n	RuntimeException を拡張した入力チェックエラークラス 入力チェックエラー発生時にスローされる。

### ◆ 関連機能

- 『AL041 入力データ取得機能』

### ◆ 使用例

- 機能網羅サンプル(terasoluna-batch-functionsample)
- チュートリアル(terasoluna-batch-tutorial)

◆ 注意事項

なし

◆ 備考

なし